

報告書抄録

フリガナ	タルマイセキ・ショウリンジイセキ・アンデラセキトウガン							
書名	垂水道跡・松林寺遺跡・庵寺石塔群							
副書名								
巻次								
シリーズ名	一般国道9号(静脈仁摩道路)改築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	8							
執筆者名	中川 寧 渡辺正巳 富川康之 宮崎恵子							
編集者名	中川 寧							
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒690 0131 島根県松江市打出町 33 TEL: 0852-36-8608 FAX: 0852-36-8025 E-mail: maibun@pref.shimane.lg.jp http://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/							
発行年月日	西暦 2019 年 3 月 14 日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村名	遺跡番号					
垂水道跡	島根県大田市静間町垂水、野伏	32205	A371	35°11'53"	132°27'25"	20160523-20160824 20180531-20180720	1,430	道路建設
松林寺遺跡	島根県大田市仁摩町大園	32205	B105	35°08'41"	132°25'06"	20160906-20161125 20170906-20171127	1,250	道路建設
庵寺石塔群	島根県大田市仁摩町庵寺	32205	B88	35°08'33"	132°24'54"	20161128-20161212	70	道路建設
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
垂水道跡	集落	奈良時代 平安時代	掘立柱建物 1、炭溜まり 1、焼土 3、集石遺構	弥生土器、土師器、須恵器、土製支脚、移動式甕、甕、鉄器		奈良時代後半～平安時代にかけての遺跡、砂丘の砂が覆う		
松林寺遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 江戸時代	【弥生時代・古墳時代】掘立柱建物 1、段状遺構 3、土坑 1、土器埋設遺構 1、焼土 5、【江戸時代】石列、階段	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器		弥生時代後期から古墳時代前期の集落、外來系土器		
庵寺石塔群	その他の墓	江戸時代	石列 2	土師器、近世陶磁器、石製品				
要約	垂水道跡	垂水道跡は大田市静間町の谷部に位置する。黒色土やその下位の砂質の土から奈良時代から平安時代の土器が出土した。また、遺跡は砂丘の砂に覆われていた。遺構として掘立柱建物、炭溜まり、焼土や集石遺構を確認した。遺物の組成は集落遺跡と同じ。						
	松林寺遺跡	松林寺遺跡は大田市仁摩町の丘陵斜面に位置する。弥生時代後期から古墳時代前期の掘立柱建物、加工段や土坑、土器埋設遺構などを確認した。集落域の中の作業場と考えられる。斜面下方に位置する大園地頭所遺跡と一体の遺跡と考えられる。北部九州系など外來系土器が出土した。						
	庵寺石塔群	庵寺石塔群は 17 世紀後半～18 世紀前半の銘を持つ石造物のある岩窟の下の平坦面に位置する。石列を確認した。出土遺物には灯籠や瓦があったことから、石列は堂や灯籠を保護していた可能性がある。岩窟より新しい 18 世紀中ごろから 19 世紀にかけて築造・機能したと考えられる。						

緯度・経度は世界測地系による

印刷仕様

紙 質	表 紙	レザック四六判	175kg
	本 文	上質紙A判	57.5kg
	写真図版	上質コート紙A判	70.5kg
D T P	Windows 8.1		
	Adobe InDesign CS5.5 PhotoShop CS5.1 Illustrator CS5.1		
画像原稿	階調画像線数 175 線 (AM スクリーン)		

垂水遺跡 松林寺遺跡 庵寺石塔群

一般国道9号(静間仁摩道路)改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書8

発 行 2019(平成31)年3月14日
発行者 国土交通省松江国道事務所 島根県教育委員会
編 集 島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131 島根県松江市打出町33
印 刷 有限会社古浦印刷
〒690-0874 島根県松江市中原町913